

新聞新賣讀

2007年(平成19年) 10月8日 月曜日

米地質調査所などの研究チームは、米西海岸で大地震を度々起しているサンアンドレアス断層の地下約3.2キロから、ボーリング(掘削)調査で、断層部の岩石試料を採取することに成功したと発表した。同断層は北米プレートと太平洋プレートの境界で、プレート境界から試料を採取したのは世界初という。

「月の石」級学術価値

研究チームは2004年、サンフランシスコとロサンゼルスの間にある地震頻発地域で掘削を始めた。先月、地下4キロまで到達し、合計41岩にわたる

米地震の巣

直径10センチの柱状試料を採取した。岩盤同士が激しくこすれ合う断層面の状態を直接観察するほか、地下4キロの穴に地震計を置き、今後10〜20年間にわたって小地震を観測、地震発生過程の解明を目指す。研究チームは「試料は、月の石と同じくらいの高い学術的価値がある」としている。

日本でも、海洋研究開発機構が中心となって、紀伊半島沖の東南海地震の想定震源域周辺で、海底下6キロまで掘り進み、プレート境界の試料を採取する予定だ。プレートの下に、別のプレートが入り込む「沈み込み帯」の境界を掘削するのは世界初となる。

岩石採取に成功

プレートの境界